

小規模企業景気動向調査

[2021年6月期調査]

～建設業を除き大幅な改善となるも、先行き不安な小規模企業景況～

2021年7月29日
全国商工会連合会

<調査概要>

調査対象：全国約300商工会の経営指導員

調査時点：2021年6月末

調査方法：対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

<産業全体> ◇…建設業を除き大幅な改善となるも、先行き不安な小規模企業景況…◇

6月期の小規模企業の景況DIは、建設業が横ばいとなったが、その他の業種では大幅な改善となった。ワークシンの普及により、経済活動が活発化し、業況も少しずつ回復傾向にあるが、製造業と建設業については、ウッドショック等原材料価格高騰の影響が出始めており、今後の採算の確保に悪影響が出ることを懸念する声が多く見られた。第5波による緊急事態宣言再発令や、まん延防止等重点措置が続く中で、全業種において未だ厳しい状況が続いており、先行きを不安視するコメントが目立った。

<製造業> ◇…回復基調が加速するも、原材料価格高騰が懸念される製造業…◇

製造業は、全DIが大幅に改善し、3ヵ月連続で全DIが改善となった。機械・金属や半導体部品の需要が旺盛で、年内の需要の継続が見込まれているとの声があった。食料品製造業は、原材料の入荷が順調で製造量も増加しており、業況は好転して、また、一般消費者向けは好調であるが、外食産業に回復の兆しが見えないことから、外食向け製造は厳しさを増している。業種を問わず、製造業全体で原材料の価格高騰が経営圧迫に繋がっているとのコメントが多く見られた。

<建設業> ◇…ウッドショック等による価格高騰の影響が続き、横ばいにとどまった建設業…◇

建設業は、業況DIが横ばい、採算DIが小幅な悪化となった。経営指導員からは住宅建築関連の需要増に伴い、昨年同期と比較しても改善の傾向にあるとの声があった。しかし、全体的に、ウッドショック等原材料価格の高騰の影響が大きく、今後も継続することを懸念する声が多かった。材料価格の上昇や材料欠品による受注控えや納期の遅れが既に始まっており、各種支援策の効果もあり現状維持するも、今後の価格転嫁等を心配する声が目立った。

<小売業> ◇…大幅な回復に転じたが、需要の転換への対応に課題が多い小売業…◇

小売業は、全DIが大幅に改善した。各自治体が独自の消費喚起策により、売上減少を抑えているとの声が多くみられた。食料品関連については、引き続き、巣ごもり需要で好調も、一部では、一般消費者の需要が減少し、購買金額・購買数も伸びず、好調とは言えないとの声もある。衣料品関連は、仕入単価の上昇が止まらず、受注が回復しても採算が取れない状況にある。また、在宅勤務が推奨される中で紳士服売上の激減は続いている。全体的に消費者の購買ニーズがネット販売に流れる傾向が続き、厳しい状況が続いている。

<サービス業> ◇…横ばいから大幅改善転じたが、今後も油断できないサービス業…◇

サービス業は、全DIがいずれも10pt程度改善した。理容業は、コロナ禍による外出自粛が少しずつ緩和され、客数も増えつつあり、売上が回復する傾向にあるとの声があった。宿泊業は、未だ宿泊客の減少傾向が続いており、一部地域で支援策を講じて客足を維持する取組も見られている。飲食業については、客数が少しずつ戻っているものの、回復速度は遅く、未だ状況は厳しい。洗濯業は、梅雨の時期で個人客の需要が増加も、宿泊業からの需要が低迷しており、厳しい状況が続いている。

業種	産業全体			製造業			建設業		
	5月	6月	前月比	5月	6月	前月比	5月	6月	前月比
売上額	▲ 34.8	▲ 27.3	7.5	▲ 36.5	▲ 26.5	10.0	▲ 22.2	▲ 21.1	1.1
採算	▲ 39.9	▲ 33.0	6.9	▲ 40.9	▲ 32.0	8.9	▲ 34.8	▲ 35.7	▲ 0.9
資金繰り	▲ 37.6	▲ 32.0	5.6	▲ 36.7	▲ 34.1	2.6	▲ 30.8	▲ 30.0	0.8
業況	▲ 41.7	▲ 34.3	7.4	▲ 42.7	▲ 32.8	9.9	▲ 33.5	▲ 33.5	0.0

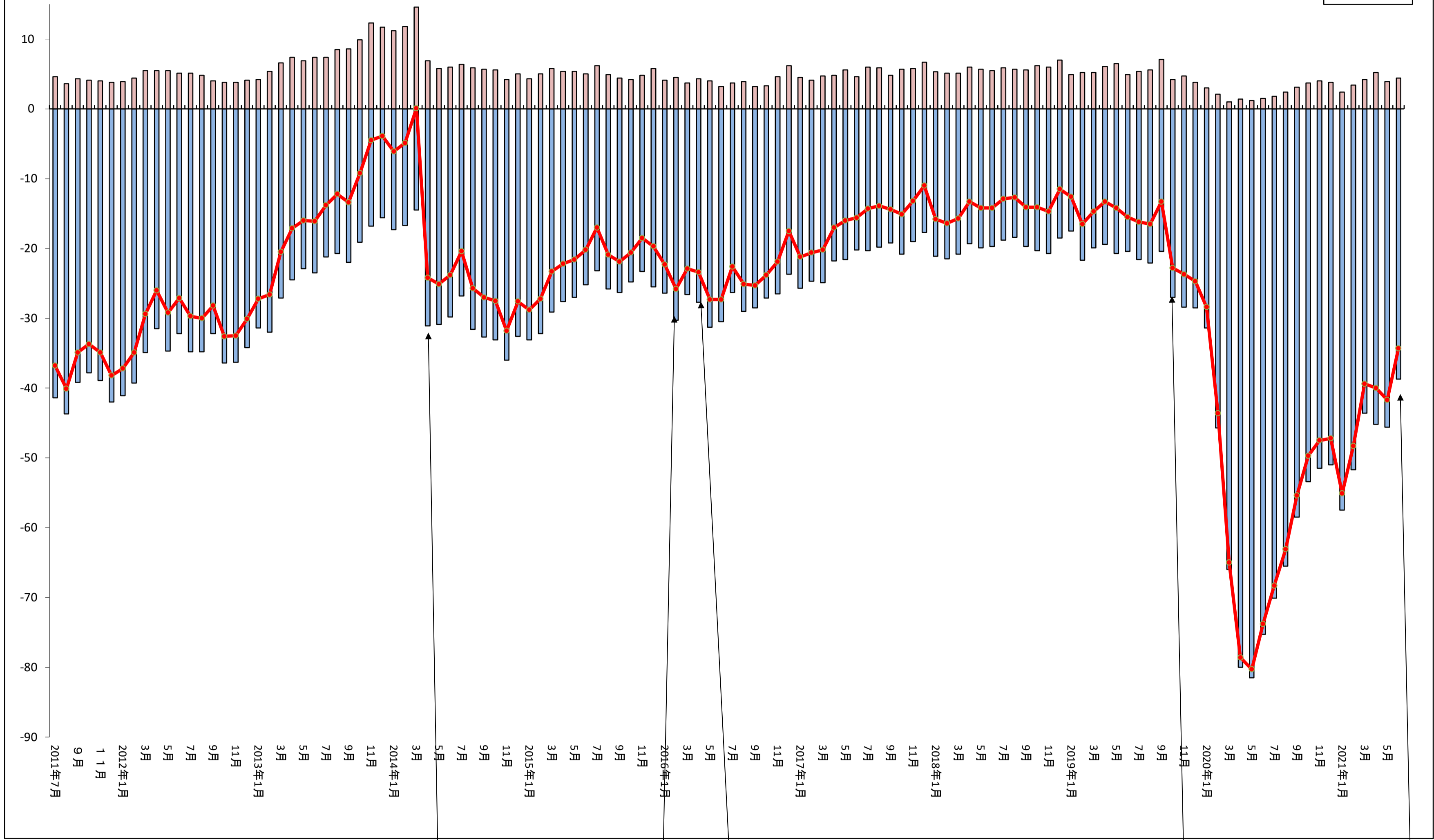
業種	小売業			サービス業		
	5月	6月	前月比	5月	6月	前月比
売上額	▲ 34.7	▲ 26.2	8.5	▲ 45.6	▲ 35.3	10.3
採算	▲ 38.0	▲ 28.0	10.0	▲ 46.0	▲ 36.5	9.5
資金繰り	▲ 35.8	▲ 27.5	8.3	▲ 47.3	▲ 36.4	10.9
業況	▲ 40.3	▲ 31.1	9.2	▲ 50.3	▲ 39.7	10.6

注) DI (景気動向指数) は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

小規模企業景気動向調査(月次)

産業全体の業況…過去10年のトレンド…

■悪化
■好転
●DI



14年4月
消費税率8%
に引き上げ

16年2月16日
日銀マイナス
金利導入

16年4月
熊本地震

19年10月
消費税率
10%引き上げ

21年6月
(-34.3)

小規模企業景気動向調査(6月期)における商工会経営指導員の主なコメント

*コメントについては、経営指導員回答の原文を掲載。

1. 景気全般

<改善傾向を示すコメント>

ワクチン接種が普及してきており、業況も少しずつ回復傾向である。

(鹿嶋市商工会)

まん延防止等重点措置対象区域の解除により徐々に好転すると思われる。

(高山南商工会)

高島市がコロナ対策として地域通貨5000円分を市民に無料配布したことで、特に小売・サービス業者への波及効果が期待できます

(高島市商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

いずれの業界も新型コロナウイルス感染症対策を実施しているものの、売上の的には減少傾向にあると言える。

(外ヶ浜町商工会)

有観客でのオリンピックの開催がここまで反対されている状況を見ると、ワクチンが普及しても経済活動を元に戻すことは難しいのだろうと感じる。Go Toトラベルの再開も不透明な中で、景気が上向き見通しが立たない事業者が多い。

(中泊町商工会)

各業種ともに、厳しい状態が続いており、運転資金需要が増えてきている。今後、国県の施策を活用しながらの厳しい状況が続くことが想定される。

(本吉唐桑商工会)

新型コロナウイルス感染による非常事態宣言による移動の自粛等による影響は大きく、昨年5月末まで実施された非常事態宣言解除後の影響は観光関連事業に大きな影響を与えている。オリンピックは地方の経済には良い影響より、感染拡大による悪い影響しか残らない様に感じる。

(北塩原村商工会)

材料等の値上げが徐々に始まり、収益が得にくくなっている中で利益の確保が難しいとの意見が増えてきた。加えて、値上げを行うことで取引先が離れることを恐れ、金額の見直しに踏み切れない。受注から契約の際にも見積提示額と実際の価格との差が予想以上に大きく、取引先等に対し即答ができないため、収益に結びつきにくくなっている。

(栗野商工会)

地元小企業に限定すると、コロナ前の売上までは回復していない企業が多い。建設業は相変わらず売上は好調だが、材料価格の上昇が今後の収益に影響が心配。

(長南町商工会)

国の緊急事態宣言が解除されたものの、まん延防止等重点措置が取られている影響により、酒類を提供している飲食店来店はコロナ以前までに回復している状況は見受けられず、非常に厳しい状況が続いている。

(狛江市商工会)

昨年から引き続き新型コロナウイルスの影響から、業種問わず景況感は低水準を推移している。そこに加えてウッドショックの影響から建設業を中心に仕入れ価格の高騰を受け、業況を圧迫している。

(畑野商工会)

5月に続いて新型コロナウイルス感染症拡大による、まん延防止重点措置で多くの事業所が影響を受けている。ワクチンの普及も徐々に広がり全体的に明るい兆しが見えつつあるも期待4割と不安6割といった印象。小売業、サービス業ではHPやECサイト作成の相談が増加。養老では商品券のデジタル化を進めようと、事業所に導入有無のアンケートを実施し、想像以上に反応があった。ネットやデジタルに関する関心度がかなり高くなっているように感じた。

(養老町商工会)

2. 製造業

<改善傾向を示すコメント>

食品製造業は巣籠もり需要で通販部門やスーパー部門の売上が伸びる。通販やスーパー売上の販促手法の取り組みを加速させ、販路拡大に繋げたいと意欲を持つ事業者の声を聞く。

(内郷商工会)

縫製業では本年1月まで下がっていたものが2月以降でV字回復し、6月は横ばいとなった。ただし7、8月については予想がつかない状況。仕事量はあるが雇用確保には引き続き苦慮している。

(浅羽町商工会)

自動車産業が好調で関連企業は好調である。

(裾野市商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

食料品製造業は、原材料の入荷も好調なことから、製造量も増加しているが、輸出量が減少しているので在庫が多くなってきている。

(外ヶ浜町商工会)

食料品…燻製食品の製造販売業者では、直販・卸も堅調に推移しており、売上はコロナ前の水準に戻りつつある。しかしながら、原材料高騰が顕著。本県でコロナ感染者が増加していることから、総業受注減少が懸念。繊維工業…洋服の設計を行うグレーディングデータ作成では前年以上の受注があり、売上を押し上げているものの、経済正常化の流れは加速しつつもコロナ以前にはまだほど遠く、受注状況回復までは時間を要する見込み。機械・金属…半導体部品の需要が多く、受注が増加している。最低でも年内は需要が継続する見込み。一方で、航空関連の売上及び受注はほぼ皆無。

(由利本荘市商工会)

食料品製造業は業況好転しているが、縫製業や機械金属製造業は厳しい状態が続いており、資金繰りに苦慮しているようである。金属部品等の資材が値上がりし、追い打ちをかけられている。

(よこて市商工会)

コロナ禍で鉄や材木等の素材価格が高騰し、仕入値が上がっており、製品・商品提供にかかる契約金額に対し、利益が確保できない状況が生じている。仕入値の増加分を価格転嫁し、早々に請求することができない商慣習もあり、苦心している事業者も存在する。

(足尾町商工会)

<食料品>一般消費者向けが好調な一方、外食産業に回復の兆しが見られないことから、外食向けの製造、卸売は厳しさを増している。ただ、業界全体としては例年並みで推移。<繊維工業>在宅時間の増加により、消費者はおよそ1年間外出用の服を買っておらず、購入マインドは高まっているものと期待されるが、購入行動に結びついていないとは感じられない。<機械・金属>建替や倉庫施設の需要が堅調。プラント関係や医療施設からの引き合いも少なくない。半導体の特需関連業者は好況。

(射水市商工会)

食料品では宴会等ができない状況にあり酒類の売上が伸び悩んでいる。家族従業員のみ経営だが従業員がいるとさらに苦しい状況。繊維工業ではR2では需要マスクの売上があったため現状低下。秋頃に海外の繊維工場が本格的に動き始めるため日本の工場(小規模事業者)は倒産する会社が増える見込み。機械・金属では全てコロナの影響ではないが競争相手が大手ばかりで規模も大きいためコロナで受注が減少すると小規模事業者は大手には敵わないので厳しい状況である。

(北杜市商工会)

3. 建設業

<改善傾向を示すコメント>

建設業に関してコロナウイルス感染症の影響はさほど感じられず、受注工事が入ってきており売上も確保されている。

(清須市商工会)

土木、建築共に順当に受注しており前年並みに推移している。

(小平町商工会)

昨年の同時期に比べると改善の傾向が見られる。

(栄町商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

建築において景況感としてやや良い見通しになってきているもののウッドショックで木材不足から着工遅れが生じてきている。

(羽咋市商工会)

建築業においては、木材の輸入量減少を受けて価格が上昇傾向にあるとともに量の確保にも苦慮する状況になってきた。規模の小さい工務店は、新築物件の新規受注にも影響が出始めている。

(外ヶ浜町商工会)

相変わらず、職種により売上増加と減少が出来ている。公共事業や大規模工事関連業者は減少、一般住宅関連は増加している。仕入状況においては木材等が入りづらいとのこと。

(五霞町商工会)

国産木材の需給バランスの乱れ(ウッドショック)や半導体不足により、施工スケジュールが遅れ、売上・採算に悪影響が出ている。

(足利市坂西商工会)

コロナ禍で住宅建築関連の需要増に伴い、材料価格が上昇しているうえ一部の資材等についてはメーカーが欠品しており納品時期が未定のため工事が始められないなどの影響が出ている。

(妙高高原商工会)

公共工事の受注時期等もあり売上増加、民間工事については先行き不透明である。また、ウッドショックのため原材料高騰。昨年対比50%増も見えてきているとのこと。海外木材コロナにより引き合い増加、国際的に日本が買い負けている。工務店厳しい。

(射水市商工会)

災害復興関係の公共工事が引き続き順調。一方、ウッドショックの影響が引き続き出ており、材料の入荷見通しや仕入れ価格の見通しが立ちづらく、見積もり作成に時間がかかる事例も出てきているとのこと。特に公共工事では見積もりの遅れは入札・工事開始に大きな影響があり、下請け企業にも影響が出始めている。また職人不足も引き続き懸案事項。

(佐久市望月商工会)

個人住宅を請け負う建築業では、各種支援金などの効果もあり例年比で受注は多いが、木材など資材高騰となっており、今後の価格転嫁等対応が心配される。

(南伊豆町商工会)

4. 小売業

<改善傾向を示すコメント>

食品を扱う小売店は、比較的好調である。県や市独自の支援金等もあるが、売上減少率がさほどなく、支援金を受給せずに事業を継続できる事業所も見られる。

(内郷商工会)

南木曾町では、新型コロナウイルス感染症関連の経済対策として、6月に町民に対して町内で利用できる商品券の給付を行い、小売業が恩恵を受けている。

(南木曾商工会)

8月、9月に町で実施される「新しい生活様式」の実践の促進及び町内の消費喚起のためのPayPay利用で20%還元キャンペーン実施に合わせ、キャッシュレス決済導入に取り組む事業者が増加。

(遊佐町商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

衣料品関連の事業者は、顧客ニーズがネット販売もしている店舗かファストファッション・高級ブランドのため、中間の婦人服専門店はほとんど商品が売れていない。食料品関連の事業者は、コロナのため、米の流通は引き続き悪く、離農および農業資材の大型チェーンへの購買シフトが進んでいる。耐久消費財関連の事業者は、コロナの影響により購買意欲・機会の減少のため、昨年度より売上が減少している。

(かづの商工会)

外出控えにより、店頭小売の減少がまだ続いている。また、今年もお祭りやイベントの中止が相次ぎ、冠婚葬祭の縮小も続いているため、酒小売業は非常に厳しい状態である。

(よこて市商工会)

上記調査事項ではないが、以外の小売業の特徴としては、売上が不変～増加傾向にある要因として客数が増加しているという事業者の例が見られる。これは、商品の配達を行っている事業者であり、コロナ禍で外出自粛が実施されている中、配達による商品購入の需要が多大にあることが考えられる。

(鹿島商工会)

前年同月期のコロナウイルス状況と現況を比較して少し好転したとしても、一般消費者の有効需要数が減少し、購買金額・購買数とも顕著に停滞しているため、前期の悪い状況と変わりなく、推移していることから、非常に厳しい状況に変わりはない。

(足尾町商工会)

新型コロナウイルス感染症は当地域では比較的落ち着いており、高齢者のワクチン接種が進みつつあるが、まだ旅行や会合などの機会が少ないため、衣料品小売業はコロナ禍で売上が大きく減少した昨年同月と比べてあまり変わらない。食料品小売業は、宿泊施設や飲食店に食材を納めている事業者は、納品先の客数が回復していないため、売上は引き続き低迷している。家電小売業は、昨年同月は自治体の補助制度創設により空気清浄機や空気清浄機能付きエアコン等の需要が急増したが、今期は設置がかなり進んだため落ち着いている。

(妙高高原商工会)

衣料品：ネット購入への移行が続き売上の低調傾向は変わらず。特に紳士服(スーツなど)は売上激減が続いている。スーパー関連好況が続く。ただし昨年よりは落ち込んでいる。(昨年コロナ特需)惣菜店テイクアウト好況、設備入れ替え需要あり。耐久消費財：半導体不足により、空調機器はじめ各電化製品の入荷が遅れ、全ての注文に対応できていない。

(射水市商工会)

食料品ではコロナの影響があり来店客の減少が否めない状況お店に安心して来てもらうためコロナ対策を万全にして営業していく。衣料小売では仕入単価は上昇が止まらず、7月以降も上がり続けるそうです。特に生地の上昇が激しいです。また、コロナ需要の裏年と言われているように売上は良くないです。がうちに関してもいえばアニメ需要があったのでそれほど落ち込んでいない感じである。耐久消費財ではコロナ関連補助金で、受注は増えているが、発注金額が安いのと、材料費の高騰により、採算は余り上がっていない状況、業況は悪くは無いが、職人不足の改善が急務である。

(北杜市商工会)

5. サービス業

<改善傾向を示すコメント>

旅館…前年6月は県民限定で宿泊客を入れていたため前年対比で比べると大幅に増加に転じている。先月同様本市の宿泊助成と県民割のおかげで、週末は満室に近い状態で平日も50名前後の宿泊数で推移。宴会については相変わらず利用はかなり少ない。洗濯…催事の少ない月なのでコロナの影響を勘案しても大きな変動は無し。また、家庭で洗える衣類が流通して、益々需要は少なくなっている。理・美容…昨年はコロナによる自粛ムードが来店客数減少や来店サイクル長期化につながり、売上への影響が大きかった分、売上は回復傾向にある。

(由利本荘市商工会)

理美容ではコロナの影響はほぼ無い。

(浅羽町商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

宿泊業は、町内大型工事に関連する業者の利用が始まり売上が戻りつつあるが、観光利用は0に等しく増加に至らない。理美容は、緊急事態宣言下にあったことから外出自粛の影響で売上減少。営業時間の短縮、営業日の間引きを行ったようだ。ワクチン接種も進んできており、今後は通常にもどる予想。

(小平町商工会)

新型コロナウイルス感染症対策による外出自粛等の影響を受けて、宿泊業は宿泊客の減少傾向が止まらない状況にある。理美容業についても、感染対策による予約制を採用して一日あたりの利用者を制限するなどの対策により売上がやや減少している。

(外ヶ浜町商工会)

旅館関連の事業者は、コロナの影響があるため、引き続き地元住民による宴会や市外からの宿泊需要は少ないものの、高速道路関連の工事業者の長期滞在があるため、当館については空室を最小限に抑えられている。昨年度が悪すぎたため、相対的に売上が増加している。洗濯関連の事業者は、宿泊施設の宿泊が減っているため、宿泊施設関連の売上は低迷しており、昨年度の半分程度となっている。理・美容関連の事業者は、昨年度の厳しい状況と比較すると売上が回復している状況。

(かづの商工会)

宿泊業は依然として観光客が回復しておらず、非常に厳しい状況が続いている。クリーニング業も主な取引先である宿泊施設の客数が回復しないため、宿泊業同様に非常に厳しい。理美容業は、人口の減少・高齢化による客数の減少に加えて、コロナ禍で利用間隔が延びるなどの影響で売上の減少が続いている。

(妙高高原商工会)

旅館業は地元周辺の公共工事が落ち着いてしまい、現場工事を行っている作業員宿泊が大幅に減少した上、新型コロナウイルス感染症拡大による旅行客宿泊が0の状態が続き、売上、採算、資金繰り、業界の業況は悪化している。

(泊江市商工会)

5月に引き続き、まん延防止期間は厳しい状況である。観光地の養老公園においても観光客数は減少、更に観光客の中でお店を利用される方が大幅に減少している。まん延防止期間があけた6月20日以降もどんよりした天気が続く客足は変わらない。また、飲食店(特に焼肉店)もかなり厳しい状況が続いている。理美容業に関してはまん延防止期間があけたことで予約等も例年通りに増え、客足は回復傾向となっているよう。

(養老町商工会)

昨年の緊急事態宣言明けと比べたら、売上増加の兆候が見られるが、コロナ前と比べたら低い状態は変わらず、一時支援金・月次支援金を申請する事業者が増えている。

(御前崎市商工会)

旅館・宿泊業についてはコロナウイルスの影響で売上が低水準であるが前年も同じ状況であったことから、前年との比較では「不変」となる。洗濯業・理美容業は過疎・人口減少の影響で売上が減少。

(大紀町商工会)

理容業は順調に売上が回復しており、あと少しでコロナ前の水準まで回復する予定である。ビジネスホテル：甲賀北地区工業団地の工事の方が引き続き宿泊していただいているので、昨年よりも売上高が上がった。旅館業では、去年は休業していたため、その時と比べると今年度の売上額は増加したことになる。しかし、5月末頃まではゴルフ客やクーポン券の利用などでお客様は多かったが、6月以降クーポン券の利用が止まってからはお客様が減った。

(甲賀市商工会)